様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年４月１日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008　～　2012
課題番号：２０５９２６９０
研究課題名（和文）　精神科看護師が実施する外来女性うつ病患者への集団認知行動療法プログラムの効果検証
研究課題名（英文）　The Effects of Cognitive-Behavioral Group Therapy in Female Outpatients with Depression by Psychiatric Nurses
研究代表者
岡田　佳詠（OKADA YOSHIE）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授
研究者番号：６０２７６２０１

研究分野：精神看護学
科研ひの分科・細目：看護学・地域・老年看護学
キーワード：うつ病、認知行動療法、集団療法、女性、精神科看護師、 外来看護

１．研究計画の概要

本研究は、精神科看護師が実施する女性うつ病患者に対する集団認知行動療法プログラムの効果を検証することを目的とする。今年度まで、プログラム前後と終了後 3 ヶ月、6 ヶ月時点での効果について、量的・質的な分析方法を組み合わせた Mixed Method による検討を行ってきた。次年度以降、対照群を設定してランダム割り付けを実施し比較検討を行う。

２．研究の進捗状況

2006年から開始した、女性うつ病患者の重要他者との関係性における認知に焦点をあてた集団認知行動療法プログラムを、精神科看護師が実施し、プログラム前後、終了後3ヶ月、6ヶ月時点での効果を検討してきた。

研究デザインは、量的・質的なデータを収集・分析し組み合わせるMixed Methodである。量的データについては、2006年4月～2010年6月までの参加者62名に対して、プログラム前後でベック抑うつ質問票・第２版（BDI-Ⅱ）、自動思考質問紙短縮版（ATQ-R）、非機能的態度尺度日本語版（DAS24-J）を実施した結果、いずれの尺度も有意な差がみられた（$t=6.96$, $p<0.01$; $t=3.34$, $p<0.01$; $t=3.2$, $p<0.01$）。

そのうち21名について終了後3ヶ月時点でも同様の尺度を測定し、BDI-Ⅱは有意な差がみられたが（$\chi^2=8.4$, $p<0.05$）、ATQ-R 、DAS24-Jは有意な差がみられなかった。さらに13名について終了後6ヶ月時点でも同様の尺度を測定し、どの尺度も有意な差はみられなかった。

質的データはインタビューにより収集し、継続比較分析法を用いて分析した。その結果、女性うつ病患者は終了後のみならず終了後3ヶ月時点でも、＜とらわれた考えと距離をとる＞＜別の考えを試みる＞などの≪認知の知識・スキルの活用≫、＜対処法の工夫＞＜自己表現のスキルの活用＞などの≪行動の知識・スキルの活用≫を行っていた。また、それらにより＜考え方の幅がひろがる＞＜重要他者に対する見方の変化＞などの≪認知の変化≫、＜重要他者とのコミュニケーションの変化＞＜日常生活の変化＞などの≪行動の変化≫、また≪気分の改善≫などがみられた。

これらの分析結果から、終了後、また終了後３ヶ月時点においても認知・行動の知識・スキルの活用により認知・行動の変化・改善、気分の改善などが示唆された。また、効果の継続のためには、ブースターセッションを設けることが必要であろう。

３．現在までの達成度

①おおむね順調に進展している

本研究は、おおむね順調に進展していると考える。プログラムの効果はプログラム前後の量的データの比較だけでは不十分で、今回終了後数ヶ月にわたって測定できたこと、また質的データを分析したことで詳細な効果を検討できた。これらによりプログラムをさらに効果的なものに改変することが可能である。次年度以降、対照群を設けたランダム化比較試験を実施する上で不可欠であったと考える。

４．今後の研究の推進方策

今後は本プログラムの効果について、対照

群を設けたランダム化比較試験を実施する予定で、現在研究計画書を作成中である。課題として共同研究者の確保、対象者のリクルートが挙げられる。共同研究者については、一昨年設立した集団認知行動療法研究会の研修活動等を通して広く協力を呼び掛けていく予定である。また対象者のリクルートについては、研究実施機関のＨＰも活用して行う予定である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①岡田佳詠、女性うつ病患者の集団認知行動療法での学び・体験と重要他者との関係性の改善、淑徳大学看護学部紀要、創刊号、65-72、2009、査読無

〔学会発表〕（計５件）
①Yoshie Okada, Satomi Nakamura, Tsuyoshi Akiyama, Miyuki Tajima, A Follow-up of the Effects of Cognitive Behavior Group Therapy Program in Female Patients with Depression in Japan, 6th World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, June 2-5, 2010, Boston (USA)

②岡田佳詠、認知行動療法の導入による新たな看護へのチャレンジ、第 9 回日本認知療法学会・第 35 回日本行動療法学会、2009 年 10 月 13 日、千葉県

③岡田佳詠、中村聡美、田島美幸、秋山剛、女性うつ病患者が集団認知行動療法終了後に継続的に活用している学習内容―３ヶ月時点の面接データの分析から―、第 6 回日本うつ病学会、2009 年 7 月 31 日、東京都

④岡田佳詠、中村聡美、田島美幸、渡邉球美、秋山剛、女性うつ病患者を対象とした集団認知療法プログラムの効果―終了後３ヶ月までの量的・質的データの分析から―、第８回日本認知療法学会、2008 年 11 月 1 日～3 日、東京都

⑤岡田佳詠、中村聡美、田島美幸、曽根原純子、矢内里英、沼初枝、渡邉球美、秋山剛、女性うつ病患者を対象とする集団認知療法プログラムの効果の検討、第 5 回日本うつ病学会、2008 年 7 月 25 日～26 日、福岡県